〈一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程〉

知的障害のある児童生徒のための自立活動の指導の在り方の研究

～個々の指導の充実と教育課程への反映～

千葉県立八千代特別支援学校　電話　047-450-6321
FAX　047-450-1459

研究のポイント

知的障害のある児童生徒における自立活動の実践的指導力を高め、効果的な指導を行うために、学習指導要領解説自立活動編の「流れ図」に基づいたフローシートを活用し、教員研修を行いながら事例研究を行った。また、自立活動の充実を継続的に行うこと、教育課程上の位置付けを明確にすることを目的として個別の教育支援計画・個別の指導計画の書式や作成プロセスを見直すとともに日課表上に自立活動の時間における指導を位置づけた。

■学校の概要　https://cms1.chiba-c.ed.jp/yachiyo-sh/

本校は昭和５４年に開校した知的障害の児童生徒を対象とした特別支援学校で、八千代市、習志野市を学区としている。全校児童生徒は小学部５５名、中学部５７名、高等部７５名（１月７日現在）である。特色としては、市内に周産期医療が充実した医療機関があるため医療的ケアの児童生徒が複数名在籍していること、近隣の住宅開発が急速に進む地域に立地していることが挙げられる。学校目標は「自ら学び生きる力を高める児童生徒の育成」で７点の重点目標を設定して教育活動に取り組んでいる。

■研究課題

新学習指導要領の主旨を踏まえた、知的障害のある児童生徒のための自立活動の指導の在り方について検討するとともに、知的障害の児童生徒の自立活動の指導の充実のための教育課程の編成や指導の在り方についての実践研究を行う。

■研究の目的と方法

研究１【目的】自立活動の目標設定や指導内容の信頼性・妥当性の向上と指導方法の検討
【方法】（１）教員研修と事例研究の実施
（２）質問紙調査の実施

研究２【目的】自立活動の教育課程への位置付けの明確化と見直し
【方法】（１）個別の教育支援計画及び個別の指導計画の書式と作成プロセスの検討
（２）授業時数の検討

■研究概要

＜研究１＞自立活動の指導の在り方の検討

【方法】（１）について、少人数グループによる事例研究を行ったことで、意見を出しやすい雰囲気になり、複数の視点から実態の分析や課題の整理を行うことができた。また、フローシートを協議資料にしたことで、全職員が児童生徒の実態を自立活動の６区分から捉え直し、目標設定や指導内容の信頼性・妥当性の向上を図ることができた。全体研修会において、自立活動の意義や考え方を学んだことも知識理解を深める上で有効であった。

フローシートの様式については、当初は千葉県総合教育センターの自立活動フローシートを作成して事例研究を行ったが、途中で指導内容に対する手立てや留意点を加えた本校独自のフローシートへと書式の変更を行った。その後、「中心的課題」の欄を設けるよう全体研修会の講師から指摘を受けたこと、知的障害のある

児童生徒への指導支援においては強みを生かすことが教育効果を高める先行研究が多くあることから「強み」の欄を設けるよう書式を変更した。少人数グループでの協議会については、中心的な課題を導き出す過程に課題意識がある教員が多く、グループ編成の工夫や研修会の実施が必要である。

【方法】（２）について、今井・生川(2013)の質問項目のうち、２６項目を使用し質問紙調査を実施した。２回とも「自立活動の指導に関する専門性の向上が課題である」の項目の平均値が最も高かった。先行研究と同様の結果であり、千葉県内の知的障害特別支援学校に所属する教員に共通する課題意識であると言える。２回の調査について各項目について有意水準５％で両側検定の t 検定を行った結果、５項目について有意差が認められた（$p<0.05$）。自立活動に関する知識や理解が進んだことで課題意識が低下した反面、個別の指導計画への反映や組織体制について新たな課題意識が生じていることが示唆された。

＜研究２＞教育課程の編成の在り方の検討

【方法】(１)について、今年度から自立活動の指導に重点を置いて指導を行うために、長期目標(３年間)に自立活動の目標を必ず一項目いれた。しかし、自立活動の目標に対する指導場面の不明確さなどがあり、自立活動の指導の教育課程上の位置付けが明らかでなかった。全体研修会の講師より助言を受け、実態把握から目標設定、指導方法を導き出す過程を明確にできるフローシートを個別の指導計画に位置付ける方向で調整している。

【方法】（２）について、今年度の教育課程においても自立活動の時間における指導を設定しているが、他教科と併記されており、どの時間にどの程度の長さを指導しているかが明確ではなかった。講師からの指摘もあり、週日課に１コマ以上は自立活動の時間における指導を位置付け教育課程を編成する。

＜総合考察＞

(１)教育課程への明確な位置付け

個々に応じた自立活動の指導を行うためには、フローシートを活用することが効果的であった。フローシートには目標や指導内容の設定・選定のプロセスが明記されており、教育課程上の根拠として必要不可欠であるため、個別の指導計画として活用していく。

(２)組織体制の充実と指導体制の工夫

教員数の不足、個々の授業時間の確保の観点から、時間における指導の指導体制を工夫する必要がある。主な指導体制としては①抽出型の個別指導②同じ空間を共有しての個別指導③集団指導での個々への指導、の三つが考えられる。次年度以降実践を積み重ねながら、人事配置や組織再編も視野に入れて工夫をしながら実践していく。

(３)全体研修会とグループ協議による目標・指導内容の妥当性の向上

小集団グループに分かれて自立活動の流れ図に沿ったフローシートの作成・協議を行ったことは、児童生徒の中心的課題や目標を導き出す過程で自立活動の指導に関する知識や技能を共有する職員研修の機会としても有用であった。

(４)タイムスケジュールの工夫によるカリキュラムマネジメントの実現

自立活動を教育課程に位置付け、継続的にカリキュラムマネジメントを実現するためには、働き方改革を踏まえたタイムスケジュールの工夫が必要である。タイムスケジュールを工夫し、個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づいた個別最適な教育課程の実現を継続的に実施していきたい。

関連資料

・千葉県総合教育センター特別支援教育部「各教科等チェックシート・自立活動フローシート」

・今井善之・生川善雄(2013),知的障害特別支援学校における自立活動の現状と教員の課題意識,千葉大学教育学部研究紀要 61,219-226

【講評】

県立八千代特別支援学校の実践について

今年度より、知的障害教育における自立活動の充実を目指す研究に取り組んでいただきました。実践研究の二本柱として、自立活動の指導の在り方の検討と教育課程の編成の在り方の検討をうまく関連づけながら研究を進めています。

今年度の成果としては、実態把握から目標設定、指導方法を導き出す過程を明確にできるフローシートを個別の指導計画に位置付けること、週日課に１コマ以上は自立活動の時間における指導を位置付け教育課程を編成することについて、方向性を示すことができました。

自立活動の指導に関する専門性の向上については、県内の特別支援学校の多くの職員が共通して抱える課題意識であると言えます。引続き実践を積み重ね、成果について、多くの特別支援学校へ発信していただくことを期待しております。